

党の任務・共産主義(者)とは

私は、ごく簡単に党の任務に触れよう。わが党は、革命の過程で最大の任務の一つに直面した。一方では、支配する党には、支配する党だという理由だけからしても、不良分子がくっついてくることは当然である。他方では、労働者階級は疲れきっており、荒廃した国にあって当然のこととしてよわまっている。ところで、労働者階級の先進的部分だけが、その前衛だけが、彼らの国を指導することができる。全国家的建設という意味でのこの任務を解決するために、われわれは、一つの手段として土曜労働を実施した。われわれはつぎのスローガンをかかげた。まず第一に戦線に動員された人々をわが党に入れよ。戦争にいくことのできないものは、労働者党とはなにかということを理解していることを、地元で証明しなければならない。共産主義の原則の適用を実地にしめさなければならない、と。ところで、共産主義とは、厳密な意味に解すれば、個人的差異を考慮に入れず、日常生活上の偏見を跡形もなく一掃し、沈滞、慣習、個々の活動部門の差異、労働の報酬額の差異、等々を問題としない、社会のための無報酬の活動である。このことは、軍事の分野だけでなく、平和的建設の分野でも、労働者階級と勤労者を参加させる最大の保障の一つである。共産主義的土曜労働のいっそうの発展が学校とならなければならない。一步をすすめるごとに、それに伴って、われわれは労働者分子と他の諸階級出身のもっとも確かな分子を党に引き入れるようにしなければならない。これは、再登録によってなしとげられる。われわれは、十分に確実でない分子を排除するのに着手することをおそれない。このことはまた、困難な時機にわが党にはいつてくる黨員を信頼することによっても、なしとげられる。中央委員会のきょうの報告がしめしているように、ユデニッチがペトログラードの数ヴェルスタ手まえにせまり、デニキンがオリョールから北進していたときに、ブルジョアジー全体がはやくも小踊りして喜んでいたときに、わが党にはいつてきた何万、何十万の黨員、これらの黨員はわれわれの信頼をかちえている。党のこのような拡大をわれわれは貴重なものとする。

党をこのように拡大したあとでは、われわれはとびらを閉じなければならない。とくに慎重にしなければならない。われわれはつぎのように言わなければならない。いま党が勝利をおさめつつあるときには、われわれには新しい黨員は必要ではない、と。解体しつつある資本主義社会では、多数の有害な分子が党にとりいつてくることを、われわれはよく知っている。われわれは、とりいる人間などがはいる余地のない党、労働者の党であるような党を、作りださなければならない。だが、またわれわれは党外の大衆をも活動に引きいれなければならない。どうやってそれをやるのか？ このばあいの手段は、党外の労働者・農民会議である。最近『プラウダ』に党外者会議についての論文がのった。この論文、同志ロストプチンの論文は、特別の注意に値いする。私は、きわめて大きな歴史的な重要性をもっているこの課題を解決する別の手段を知らない。党はそのとびらをひろく明けはなつことはできない。というのは、資本主義の解体期には、不良分子が党にはいりこんでくることは避けられないからである。党を十分に狭くして、労働者階級以外の他階級の出身者については、党がもっとも慎重に試験することのできる分子だけを、入れるようにしなければならない。

だが、一億余の人口をかぞえる国で、われわれの党員は数十万人である。このような党がどのようにして統治することができるのか？ 第一に、党には、幾百万人を組織する労働組合という補助者があり、またなければならない。第二の補助者は党外者会議である。これらの党外者会議で、われわれは非プロレタリア層に近づくことができなければならない。これは、もっとも根本的・基本的な任務の一つである。

われわれは、どれだけの数の党員があれこれの仕事のために活動しているかということによってだけではなく、また再登録がどんなにうまくおこなわれているかということによってだけではなく、さらに、これらの党外の労働者・農民会議が十分に規則的に、また頻繁にひらかれているかどうかによっても、すなわち、いますぐ党にはいることはできないが、われわれとして活動に参加させなければならない大衆に近づく能力のあるなしによっても、われわれの党組織の成果を評価しなければならない。

もしわれわれが協商国を打ちやぶるとすれば、それは、われわれが労働者階級のあいだに、この党外大衆そのもののあいだに、共感を獲得したためでしかありえない。もしわれわれが結局コルチャックを打ちやぶるとすれば、それはおそらく、コルチャックが勤労大衆の貯水池から新しい勢力を汲みとる可能性を失ったためにほかならぬであろう。ところで、われわれには、労働者階級の政府をのぞいては、世界のどの政府にもないような、世界のどんな政府にもありえないような貯水池がある。というのは、労働者階級の政府だけが、絶対的な成功の確信をもって、もっとも抑圧され、もっともおくれた勤労者のあいだから、大胆に勢力を汲みとることができるからである。われわれは、党外の労働者、農民のあいだから勢力を汲みとることができ、また汲みとらなければならない。というのは、彼らはわれわれのもっとも確かな味方だからである。穀物と燃料を確保するというこれらの課題を解決するために、発疹チフスに勝利するために、われわれは、資本家と地主によってだれよりも抑圧されてきたほかならぬこれらの大衆のあいだから、勢力を汲みとることができる。そして、われわれにたいするこれらの大衆の支持は保障されている。われわれは引きつづいてこの層からますますふかく汲みとっていくであろう。そしてわれわれは、最終的にはわれわれはすべての敵を打ちやぶるであろう、とすることができる。われわれがデニキンにたいする勝利のあとで真剣に展開する平和的建設の分野でも、われわれは、この二年間に軍事の分野でなしとげたものよりもはるかに大きな奇跡をなしとげるであろう。

第 30 卷『ロシア共産党(ボ)第八回全国協議会』P178~181

『ロジア共産党(ボ)中央委員会通報』第九号、1919年12月20日

ポイント

共産主義とは、厳密な意味に解すれば、個人的差異を考慮に入れず、日常生活上の偏見を跡形もなく一掃し、沈滞、慣習、個々の活動部門の差異、労働の報酬額の差異、等々を問題としない、**社会のための無報酬の活動である**。このことは、軍事の分野だけでなく、平和的建設の分野でも、労働者階級と勤労者を参加させる最大の保障の一つである。

われわれは、どれだけの数の党員があれこれの仕事のために活動しているかということによってだけではなく、また再登録がどんなにうまくおこなわれているかということによ

ってだけではなく、党外の労働者・農民会議が十分に規則的に、また頻繁にひらかれているかどうかによっても、すなわち、いますぐ党にはいることはできないが、われわれとして活動に参加させなければならない大衆に近づく能力のあるなしによっても、われわれの党組織の成果を評価しなければならない。

コメント

大衆をしっかり党のまわりに組織できなければ大衆的な党は作れない。このことの出来ない大衆的な党はその活力を失い、活動は低い方へ低い方へと傾いていく。